



こまつしまを守りぬく ～新たなステージへ向けて～

基本的な考え方

- 全国的にも依然止まらない喫緊の行政課題である「人口減少」への対応として、これまで以上の覚悟をもって積極的な取り組みを進める
- 令和6年能登半島地震、物価高騰の長期化、コロナ禍からの脱却など、本市を取り巻く様々な環境の変化によって生じた市民ニーズに適切に対応していく
- 新たなステージに入った小松島づくりの実現に向け、ハード・ソフト両面において切れ目なく取り組む

予算編成のポイント

- 令和4年度から継続する「子育て世代応援プロジェクト」を令和6年度においても推進・拡大し、**人口を守りぬく**
- 大規模災害への備えや、予防に軸足を置いた健康づくりに努め、**命と健康を守りぬく**
- 物価高騰による生活への不安解消を図り、**市民の暮らしを守りぬく**
- 交流人口等の増加を企図した将来を見据えた事業等について、着実に取り組みを進め、**まちのにぎわいを守りぬく**



「小松島市子育て世代応援プロジェクト」の推進・拡大【3億5,664万円】～「人口」を守りぬく～

子育て世代の負担軽減【244,042千円】

★子どもはぐくみ医療費助成事業【163,312千円】●

⇒18歳に達する日以後の最初の3月31日までの子どもを対象とした医療費の一部助成について、入院費に加えて通院費についても自己負担を廃止し、子育て世帯の経済的負担を軽減します。

★子育て世帯応援学校給食無償化事業【76,730千円】●

⇒令和5年度に引き続き半年間、学校給食費に関して補助を行い、保護者負担額の値上げを抑制することにより、子育て世帯への物価高騰の影響を軽減します。

★子育て世帯応援学校給食無償化補助金給付事業【4,000千円】●

⇒「子育て世帯応援学校給食無償化事業」の恩恵を受けない世帯に対しても半年間、給食費相当分の補助を引き続き実施します。

子育てと両立しやすい職場環境づくり【13,863千円】

★リスクリングの支援【6,000千円】●

⇒子育てがひと段落し、再就職を考える保護者の方の円滑な再就職に向けたスキルの獲得を支援します。

★雇用対策の推進【7,863千円】

⇒子育てと仕事の両立を図るためのテレワーク普及促進や、新たな雇用創出のための企業誘致等に取り組みます。

子育て世代向けイベント等の開催【1,032千円】

★各種子ども向けイベントの開催【1,032千円】

⇒令和5年度に引き続き「楽しく、学ぶ」をテーマに、絵本イベントや消防あそびイベントなど、家族で楽しめる子育てイベントを幅広く開催します。

子どもの教育環境の充実【9,005千円】

★外部人材活用事業【8,600千円】●

⇒年間を通して専門性、技術性の高い講師を招き、講演や実技指導を通じて子供たちの特技や可能性を伸ばす本市独自の生きた実践教育を展開します。

★教育支援体制整備事業【405千円】●

⇒退職教育や教員志望の学生等の地域人材を「学習指導員」として学校に配置し、きめ細やかに子どもの学習活動をサポートします。

親子が安心できる空間づくり【93,008千円】

★病児保育事業（体調不良児対応型）推進事業【1,029千円】●

⇒体調不良となった乳幼児が安静に過ごすための、衛生面に配慮されたスペースを確保し、安全で安心な受け入れ環境を整備します。

★ステーションパークの整備【91,979千円】●

⇒親子が安心して遊べる空間として、ステーションパークの外構工事や、市立図書館との接続エリアにおいて、アウトドア・テラスの整備を進め、緑の公園と学びの施設が一体化した癒しの空間を構築します。





「守りぬく」予算【5億4,990万円】

「命」を守りぬく【93,169千円】

★津波避難施設整備事業【38,563千円】●

⇒和田島北部地区の津波避難困難者を解消するため、約600人を収容できる新たな津波避難施設を整備します。

令和6年度は、「和田島北部地区津波避難施設整備基本構想・基本計画」に基づいて、地質調査並びに避難施設の詳細な仕様や配置、設備等を決定する基本・実施設計を行い、令和8年度の供用開始に向けた準備を着実に進めます。



津波避難施設（イメージ）

★民間建築物防災事業【38,716千円】●

⇒令和6年能登半島地震を踏まえ、南海トラフ地震の発生が危惧されている本市では、木造住宅の耐震化をより推進する必要があります。そのため、耐震改修支援事業の補助金に合わせて、本市独自の上乗せ助成額を15万円から35万円に引き上げることで、申請者の改修費用の負担軽減を図り耐震化を促進します。

★防災行政無線放送アプリ導入【4,340千円】●

⇒防災行政無線により伝達する防災・緊急情報を市民が受け取りにくいことが課題となっていることから、防災行政無線の放送後直ちにスマホから音声放送を聞くことができるアプリを導入し、防災・緊急情報を迅速かつ正確に市民に伝達する体制を強化します。

★消防施設整備事業【11,550千円】（通信設備関係分を抜粋）●

⇒119番通報は、現代において市民の生命にかかわる重要な社会インフラであり、その通信等の障害の発生は大きな影響を与えることとなります。将来的な固定電話網のIP化を見据え、119番通報の受電設備、これに付随する位置情報システムを更新整備することにより、迅速・円滑な消防通信指令体制を構築します。

「健康」を守りぬく【167,812千円】

★子どもはぐくみ医療費助成事業【163,312千円】●（再掲）

★糖尿病と闘うプロジェクト●

⇒「健康こまつしま21第3次計画」の基本目標としての「市民の健康寿命の延伸」を実現するため、「糖尿病と闘うプロジェクト」を立ち上げ、妊産婦から高齢者まで幅広い世代を対象とした糖尿病の発症予防、早期発見、合併症予防に取り組んでいきます。

◆認知症予防事業【4,500千円】●※特別会計

⇒令和5年度実証事業である脳トレアプリを活用した認知症予防事業を継続・拡大し、スマホ等でゲーム感覚で行う脳トレ活動を支援します。また、認知症予防などをテーマにした交流イベントの開催も予定しています。

「暮らし」を守りぬく【273,821千円】

★子育て世帯応援学校給食無償化事業【76,730千円】●（再掲）

★子育て世帯応援学校給食無償化補助金給付事業【4,000千円】●（再掲）

★一般廃棄物中間処理施設整備事業【56,784千円】●

⇒老朽化するごみ処理施設の現状を踏まえ、「小松島市ごみ処理施設整備基本構想」に基づき、「小松島市ごみ処理施設整備基本計画」を策定します。

★重層的支援体制整備事業【136,307千円】●

⇒複数の分野にまたがる課題をかかえる世帯を市全体で包括的に支援します。

「にぎわい」を守りぬく【15,100千円】

★賑わい創出イベント【4,600千円】●

⇒昨年好評に終わった各イベントを踏まえ、令和6年度においても、小松島商工会議所等と連携し、魅力ある大規模イベントを定期的に開催することで、本港地区における交流人口・関係人口のさらなる増加につなげます。

★こまつしま秋の阿波踊り【2,000千円】●

★小松島「逆風」ハーフマラソン大会開催事業【8,500千円】

令和6年4月より「小松島市重層的支援体制整備事業」を実施します

高齢化や人口減少といった社会情勢の変化により、地域における人と人とのつながりが希薄となり、複雑複合的な問題を抱えたまま必要な支援につなげていない住民が増加しています。小松島市では、「誰ひとり取り残さないまちづくり」を目指して「重層的支援体制整備事業」を実施します。

重層事業で取り組む5つの事業

包括的相談支援事業(市地域包括支援センター、相談支援ひのみねほか、子育て応援教室「HUGくみ」母子健康包括支援センター「おひさま」、こまつしま生活自立支援センター)
「介護」「障がい」「子ども」「生活困窮」といった分野や属性を超えて相談を受けとめ「断らない相談支援」を目指します！

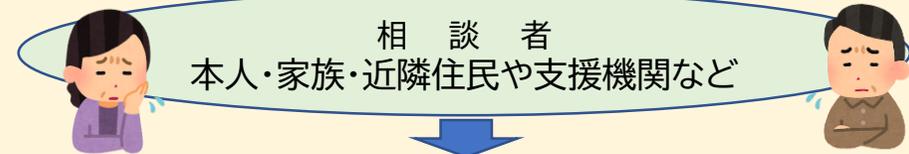
参加支援事業(こまつしま生活自立支援センター)
社会とのつながりが希薄となりひきこもり状態にある人の社会参加を支援します！

地域づくり事業(市地域包括支援センター、地域活動支援センター、子育て支援センターほか)
分野や属性、世代を超えて集える交流の場の創設、多様な居場所づくりを促進します！

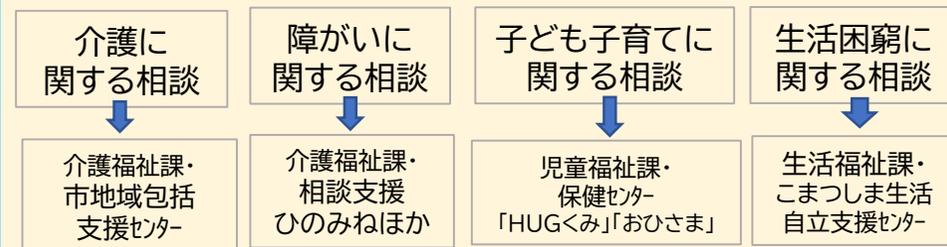
アトリーチ等を通じた継続的支援事業
(小松島市社会福祉協議会・こまつしま生活自立支援センター)
支援が必要にもかかわらず、支援の手が届いていない人にアプローチし、継続的な伴走支援をします！

多機関協働事業(小松島市社会福祉協議会)
様々な分野にまたがった複雑かつ複合的な課題を抱えている人について、支援プランを作成し、支援者間の役割分担の調整をしながら支援者全体で支援する体制を作ります！

小松島市の相談体制



相談内容が単一分野の場合は、各担当機関で相談対応します。



重層的支援体制整備事業の実施により期待される効果

相談内容が複数の分野にまたがっている場合やどこに相談したらよいかわからない場合には…

狭間のニーズ

分野が重複する課題

担当がはっきりしないなど

介護福祉課地域共生社会推進担当、市社会福祉協議会へ

単一の相談機関だけでは対応が難しい相談については、市関係各課及び各支援関係機関が集まる重層的支援会議の中で、相談者の気持ちに寄り添って課題を洗い出し、本人やその家族のニーズにそった支援プランを作成し支援を行います。

市全体で包括的な支援